

## 目次

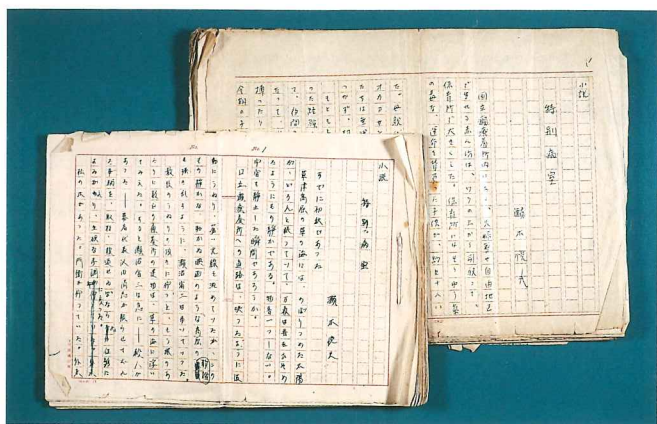
- P1-P2 2021年度企画展『重監房を報道した男～関喜平展』報告  
 P3 活動近況  
 P3 冬の重監房資料館周辺  
 P4 2021年度来館者統計  
 P4 お知らせ  
 P4 お客様の声（来館者アンケートより抜粋）  
 P4 ご利用案内・アクセス

## 2021年度企画展『重監房を報道した男～関喜平展』報告

みなさまからのご要望にお応えして、昨年末12月26日まで会期延期をした『重監房を報道した男～関喜平展』は無事終了いたしました。寒さが厳しくなる11月15日より冬期予約期間となる当館ですが、「会期が延長したのだから」と2度3度と来館してくださいました方もあり、ありがとうございました。

## 企画展でお宝が増えました！

前号でも触れましたが、企画展を通して、当館は収蔵資料を増やすことができました。関喜平ご遺族のご厚意によるものです。2019年寄贈のスクラップブックと「要求書の回答記録」、単行本の『特別病室』に続き、このたび新出の小説『われとわが身を』（1945年刊行）と『特別病室』直筆原稿（2綴）を寄贈いただきました。これらは間違いなく当館の宝になります。



【写真1】9月に見つかった『特別病室』の直筆原稿

関喜平が、昭和16年に解散させられた湯之澤部落について熟知していたことを示す『われとわが身を』は、開期直前の7月初めに見いだされました。作品

手にした私たちは「これは発見だ！」と驚きました。展示構成を決めた後でしたが、資料の重要性を鑑みて、公開に踏み切りました。

『特別病室』の直筆原稿は、9月11日のトークイベントで存在が明らかになりました。ひとつは原稿用紙45枚、ストーリーの途中までをこよりで綴じているもの、もうひとつは74枚あり、こちらもこよりで綴られていますが、最後の数ページが破損しており、残念ながら小説の結末はわかりません。しかし2綴とも冒頭の書き出しが異なり、主人公を変えることで違う視点から書かれています。活字化されている『特別病室』2編とは、文章もトピックの並べ方も、登場人物の発言も異なる原稿です。引き続き検討が必要ですが、企画展の会期延長に伴い、これらも10月から展示、公開を行いました。

## 関家の倉庫調査

11月晴天の月曜日。関喜平の初孫で、9月のトークイベントに出演していただいた江尻潔さんと久美子夫人の案内で、中之条にある関家の倉庫を調査しました。

トークイベント時も潔さんが単行本『特別病室』を発見の経緯をお話してくださいましたが、まさに



【写真2】調査の様子



その倉庫です。ご親族が物置にしていると伺っていた通り、倉庫内は農作業に使う機械や道具があり、棚に大きな木箱と大小様々なダンボール箱が収納されていました。お宝がでてくるかと期待して開けたところ、ダンボール箱のうち14箱に喜平が所有していた思しき蔵書類が詰め込まれ、その中に毎日新聞社発行の『毎日年鑑』（1950年から1966年にかけて）も多くありました。

### 四万温泉から引きとったご遺品

喜平は晩年、病氣療養を兼ねて四万温泉で過ごしています。そこに記者時代のスクラップブックや写真・手紙、若かりし頃の作品や原稿も持っていったそうです。喜平の没後、それらのご遺品を長男の光さんが自宅に引取り、保管していました。

関喜平展の開催が決まり、何度か光さん宅を訪問しましたが、その期間に光さんも改めて遺品のダンボール箱を再調査してくださり、そこから先述の『われとわが身を』と『特別病室』の直筆原稿が出てきたのです。そうなれば、私たちとしてはどうしても、光さん所有の遺品を隅々まで見てみたくなり、ご無理をお願いして12月に拝見し、今年1月に当館にお貸しいただきました。これらを整理・分析、検討を重ねることで、喜平についてわかる部分が増えると思います。膨大な量なので時間はかかりますが、さらなる価値を見いだす可能性を考えています。新発見を得た際には、その都度ご報告いたします。

### 『実話小説 特別病室』の復刻

小説『特別病室』に関しては、企画展中のアンケートやトークイベントの感想で、再刊を望む声が少なからずあがっていました。当館としても1947年の「人権闘争」の目撃者である関喜平の小説復刻は開館以来温めてきた企画でしたので、この機会に『大衆クラブ』版を「瀬木悦夫シリーズ1 実話小説 特別病室」として復刻することにしました。瀬木悦夫は関喜平のペンネームです。なぜ『大衆クラブ』版なのかは、「シリーズ1」冒頭に記しました。

「シリーズ1」にしたのは、『われとわが身を』他、ハンセン病をテーマにした瀬木悦夫の小説を順次刊行したいと考えているからです。これらは啓発物として配布いたしますので、ご興味がございましたら当館までご連絡ください。



【写真3】復刻した「瀬木悦夫シリーズ1 実話小説 特別病室」

『実話小説 特別病室』の結びは、患者代表の澤田委員長のお礼の言葉に託して、関喜平が戦中戦後にかけて湯之澤や楽泉園での取材を通じて到達した見識が示されています。以下に引用します。

癩政策は癩の伝染説を採用してから、癩者を不幸なる鉄鎖で縛った。強制収容して猛獣をオリへ集めた。癩の恐怖感はそのから始まり、癩の発病は罪人かの如き社会の仕打ちをうけた。癩は果たして伝染であろうか。何人が伝染したであろう。癩菌は未だ実体が掴めない。培養も出来ない。どの消毒液が効くかさえ判らない。その癩菌が何をもって伝染するというのであろう。社会は幻惑されている。癩者を収容療養することは国家的な同情と優遇であると、担当官は観念している。そこに人権蹂躪が起きた。癩者にとっては、収容以前の癩部落、自治社会当時の方がよほど幸福であった。収容政策も恐怖感を訂正せぬ限り、癩の自治社会へ戻すことがより理想である。官僚が癩者を優遇の綱によって縛っていることに無理が生じるので、むしろ癩者が自治する収容所でありたい。園長も事務官も看護婦も癩者から選ばれていいのだ。国家も社会もそこまで理解できるだろうか。癩者と結婚するだけの理解ある社会人があるだろうか。癩を理解するものが癩を救うものである。

75年前の新聞記者・関喜平の到達点は、時を経てもお光彩を放ち、私たちに迫ってきます。是非とも多くの方が、関喜平が発信した渾身の「ルポルタージュ」を手にし、ハンセン病問題が未解決であることを踏まえて、「もしも、私がこの人権闘争に遭遇したならば、どのように行動できただろうか」と想いを馳せてほしいのです。（鎌田麻希・黒尾和久）



## 活動近況



企画展、イベントの合間も、重監房資料館では、様々な活動が行われています。エントランス・ホワイエでは、調光機能付きの照明設備が施工され、新たな展示空間として活用できるようになりました。ひとつひとつの写真作品の展示でも、適切な照明演出により、今まで見えにくかった色彩も浮き出されます。これまで表現し切れなかった展示を、新たな形で来館者の方々に披露できるよう、当館の展示構成を追加、検討してまいりたいと思っています。

スタッフ間での研修も、随時行われ、その中では、資料の撮影も進められています。撮影には慣れていないスタッフもあり、お客様の少ない時間帯を見計らって、撮影セットを広げ、機材の使い方、撮影時の資料の扱い方を教え合い、技術や注意点を共有します。収蔵資料の撮影、整理も続けられていくようになり、今後の当館の活動に活用されていくことになります。

展示環境を整えたり、研修をしたり、さまざまな形で資料館を押し進めていきます。

## 冬の重監房資料館周辺

この冬は、オープンした頃のほどではありませんが、久しぶりに草津らしく、雪が舞うことが多かった年となりました。画像は元日の朝の重監房資料館ですが、風雪に覆われ、入所者の方も大わらわで、ご自宅の雪下ろしをやっておられました。重監房資料館は風がよく通る場所に立地しているので、ひとたび天候が荒れると、厳しい吹雪となります。隣接する栗生楽泉園のご厚意により、駐車場は除雪をして頂いておりますが、それでも、エントランス周辺や細かい出入り口は当館のスタッフが対応しなければならず、腰や腕の痛みもなんのその、全員で雪かきに精を出す日が続きました。

春が近いとは言っても、草津はまだまだ雪が降るかも知れません。ゴールデンウィークでも真っ白になったことがあります。草津方面にお出かけの方は、服装にも、車にも、寒さと雪の対策を、お忘れにならないようにお気をつけ下さい。

(香川進司)





## 2021年度来館者統計



## 2021 年度入館者数

※臨時休館：1/18(火)～1/30(日)

延べ **2,108 人**  
 1日平均 **8.0 人**  
 開館以来延べ **43,503 人**

## ホームページアクセス数

2021 年度 **44,716 回**  
 開館以来延べ **363,998 回**

## お知らせ

### ■新型コロナウイルス感染拡大防止のための、来館者の皆様へのお願い

重監房資料館では新型コロナウイルス感染防止のために、館内の見学者を常時 10 人までに制限させて頂いております。開館時間も、しばらくは、10:00～15:30（最終入館 15:00）に縮小させて頂きます。ご来館時には、事前に、ホームページから見学のご予約を頂ければ、幸いです。

ご不明の点は、お手数をおかけしますが、重監房資料館までお問合せください。

## お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

◎障害を持った方々と関わる仕事をしており、様々な差別がこれらの方達に向いている現状を感じる事があります。接していると普通の人なのですが、見た目で嫌がられてしまうのですよね。難しいですが、差別が無くなる日が来ると良いです。

（群馬県、40 歳・男、団体職員）

◎企画展の会期が延期されたことがありがたく、訪問することができました。新型コロナウイルスの影響で博物館などへも行きづらい中、意義深い企画展だと思います。オンラインでのトークイベントも拝見し、大変勉強になりました。今後の企画展にも期待しております。

（群馬県、43 歳、会社員）

◎授業でハンセン病のことを知り、教授からも「機会があったら行ってみたいほうが良い。」と言われて来ました。実際に来てみて、重々しい雰囲気を感じました。私が思っていた以上にひどい扱いをされていたり、こういった環境の中、患者が生きていたと思うと心がとても痛くなります。今もコロナで地方だと差別であったり、〇〇の〇〇さんがと言われてしまったりします。差別や人権侵害のなくなるようになってほしいと強く思います。

（埼玉県、21 歳・女、学生）

◎事実と教訓を伝え続ける、このような資料館の存在と働く皆様に感謝です。人は過ちを犯すし、負の歴史は繰り返してしまうので、差別や偏見に加担することがないように自分を律して過ごしていきたいと思いました。ハンセン病にまつわる歴史と、今もなお闘い続けている人がいることを忘れず、周囲の人に伝えていきたいですし、私は個人的にこの春大学卒業後は全国紙の記者になるので、これからも注目し伝えていきたいと感じます。ありがとうございました。

（東京都、23 歳・女、学生）

## ご利用案内・アクセス

■開館時間■ 4/26-11/14（フルオープン期間）：9:30～16:00

※但し、当分のあいだ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10:00～15:30（最終入館 15:00）に縮小させて頂いております。

11/15-4/25（冬期予約期間）：10:00～15:30（団体、個人とも完全予約制）

■休館日■ 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

■入館料■ 無料

■交通案内■ 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約 25 分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分

車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分

（草津方面からお越しの場合は楽楽園の正門を入らず、その先 200m の未舗装路をお入りください。）

## 重監房資料館「くりう」第 19 号【季刊】

発行日：2022（令和 4）年 3 月 25 日／企画・編集・発行 重監房資料館／URL：<http://sjpm.hansen-dis.jp/>

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553